

パーツの混合とは

パーツの混合とは？

動かしたくないパーツまで動かしてしまうことを
パーツの混合と呼んでいます。

例えば、

開いた手のひらの中指だけを曲げようとしても、
一緒に薬指まで曲げてしまうイメージですね。

(何回もこの例を使っているのでもしつこいですねw)

このように、パーツがぐちゃぐちゃにこんがらがった
状態からボイストレーニングをスタートさせると、
後々とんでもない事態に見舞われます。

例えば、

- ・息だけが漏れて裏声自体が出せなくなる…

(地声と裏声の混合)

- ・話し声でも歌声でも、とにかく低音から高音まで声が

ガラガラする

(仮声帯と喉頭蓋の混合)

- ・声帯に砂が挟まっているのかと思うほど、声がシャリシャリ、チリチリノイズが混じる

(喉頭蓋と声帯の混合)

などなど、混合する要素はたくさんあるのです。

確かにパーツの分離というと、ミックスやベルティングとは違い、

地味でつまらない印象があるかと思います。

しかし、このステップを飛ばすことは危険以外の何ものでもないので、

ぜひじっくりと取り組んでみてくださいね。

パーツの混合と”過保護”

この講座では、超上級者向けにお話しておきますが、

パーツの混合を解消しようと、一生懸命に分離”だけ”を

やっていると、**かえって不都合が生じる可能性があることを覚えておいてください。**

「いや、お前さっき分離が重要って言ったばかりやんけ！」

と思いますよね。

確かに、分離は超重要事項なのです。なのですが、

分離「だけ」やっていると、例えばこんな症状に見舞われます。

- ・いつまでたっても地声と裏声がつながらない

- ・声がつルツルになり、仮声帯の「か」の字もないほど

味気なくつまらない声になる。

(サザンの桑田さんのような声、ワンオクのTakaさんのような声が出しにくくなる)

- ・ベルティングがやりにくくなる

これ、シンガーさんだけでなく、

ボイストレーナーもかなり陥りがちなんですよ。

一部の研究熱心なトレーナーは、分離の重要性をこれでもかというほど身にしみて知っています。

が故に、分離最高！分離が全てだ！とばかりに

分離に全振りします。

その結果、

「スケール練習は上手！！

確かにミックスボイスだ！！

低音から高音まで綺麗に繋がって

いて発声的には言うことなし！！素晴らしい！！

…あれ、でもこんなつまらない声で歌うのが

音楽的に正しいのかな…？」

てな悩みが出てきてしまいます。

だからこそ、ここでハッキリ申し上げておきますが、

この講座では、

“あえて”混合させるようなエクササイズも入れています。

分離と混合はお友達のようなもので、

両方バランスをとってやっていくのが最高のトレーニングなのです。

そうすると、必要以上に分離しすぎる

(“声帯を過保護に扱う”と呼んでます)

ことがなくなりますから、安心してトレーニングできます。

ということで、上級者向けの話になりましたが理解していただけましたか？

狙って混合のトレーニングを入れる。

(いや、狙っている時点で混合とは言えないのですが、

分離という視点から見た場合、対極にあるという意味での混合ですね。)

ぜひこの概念を覚えておいてくださいね。

